

電動ダンパー仕様で補足説明書が同梱されているものは、それに基づき電気工事をおこなってください。

安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく取り付けをおこなってください。
 - ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他人への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を示すために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- 警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。**
- 注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。**
- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。
- 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
 - 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

- ### 警告
- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります
 - 交流 100V 以外では使用しないこと
発火・感電の原因になります
 - レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
 - アースを確実に取り付けすること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
 - アースの取り付けは販売店にご相談ください
 - レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
詳しくは、所轄の消防署にお問い合わせください
 - 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
 - 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
 - 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

- ### 注意
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
 - レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火するおそれがあります
 - 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります
 - 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）
感電および故障の原因になります
 - 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
 - レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをすることがあります
 - 部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをすることがあります
 - 作業は2人以上でおこなうこと
レンジフードは約29/30kgの重さがあります

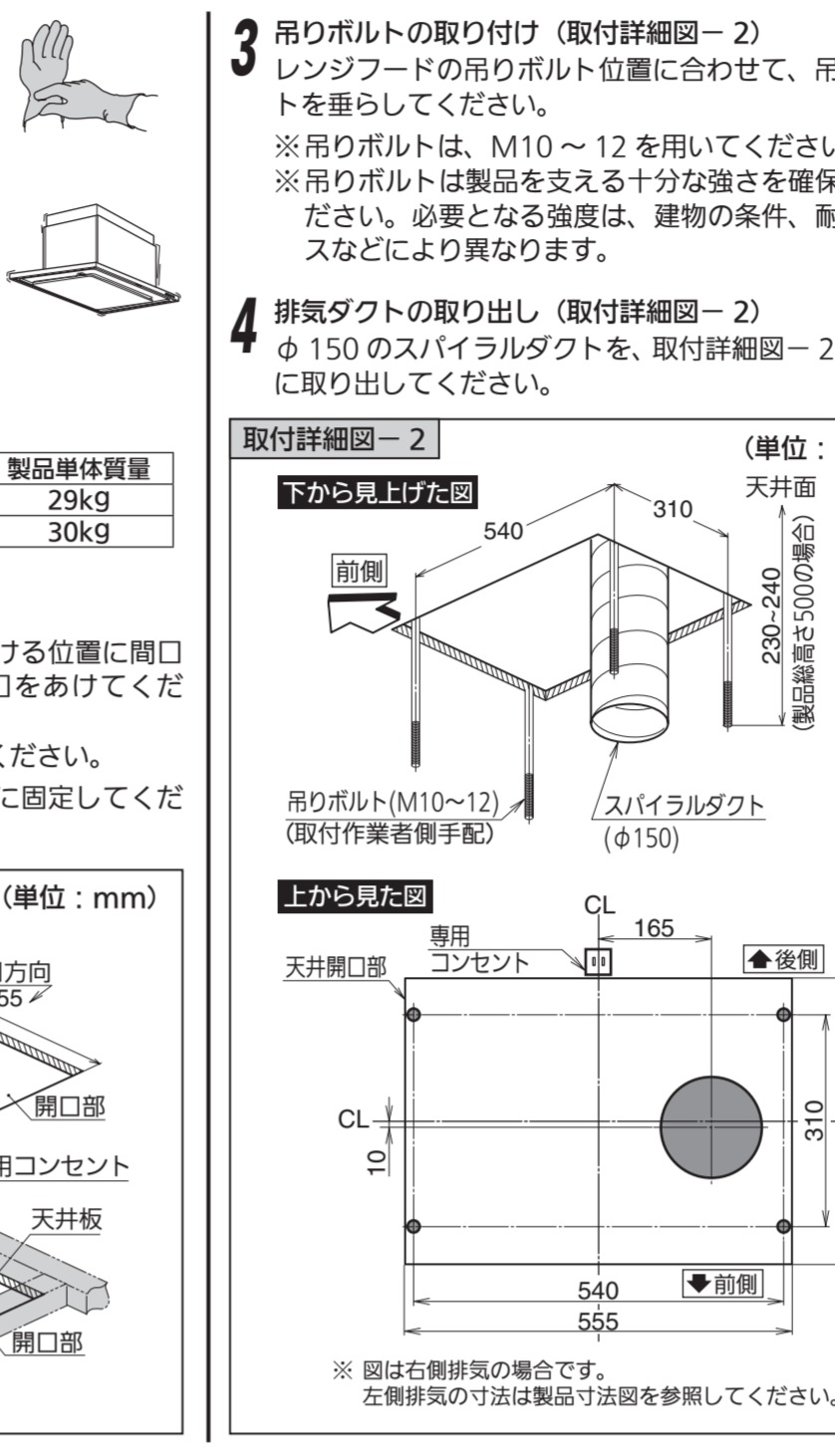
取り付け上のお願

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
 - ・大工工事【設置のための下地工事等】
 - ・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等】
 - ・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】
- 流通業者（販売店）を通じて組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
 - ・ダクトを50mm以上の不燃材、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材で被覆してください。
 - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。捕集性能が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けのベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は400m²/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。
防虫網付きのものは必ず網目径が小さく、落下防止用網目径が小さく使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気性能をいじりしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフードは調理機器の真上に取り付けてください。
なお、レンジフード取付高さは、レンジフードの下端が調理機器の真上80cm以上になるようにしてください。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。
また、横方向50cm以上離して取り付けください。
湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で調理される場合は、油煙が捕集されませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約400cm³程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露しレンジフード内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- ダクトは必ず屋外側に向けて下り勾配を設けてください（目安：1/1000～1/500程度）。
雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。
- 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。
塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。

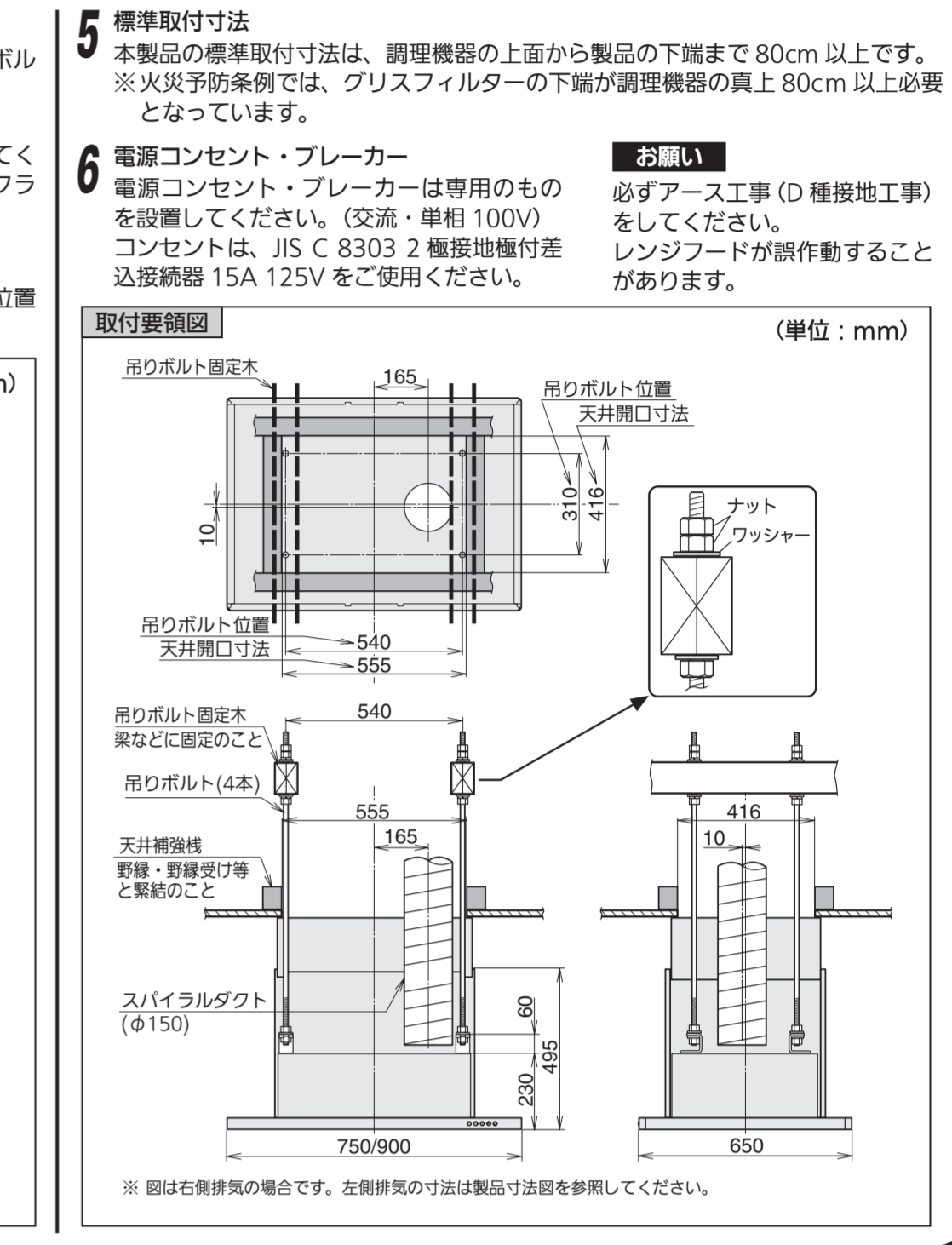
取り付け前の調査と準備

- ### 警告
- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります
 - レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
 - レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
詳しくは、所轄の消防署にお問い合わせください
 - 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
 - レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火するおそれがあります
 - 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります
- ### 注意
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
- 1 取付箇所の強度確認
製品を支える強さが必ず必要です。
- 2 天井面への穴あけ（取付詳細図-1）
1) 天井面のレンジフードを取り付ける位置に開口555mm×奥行416mmの開口をあけてください。
2) 開口部周辺を補強線で補強してください。
※補強線は、野線・野線受け等に固定してください。
- 3 取り付けの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります
- 4 レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをすることがあります

標準取付寸法



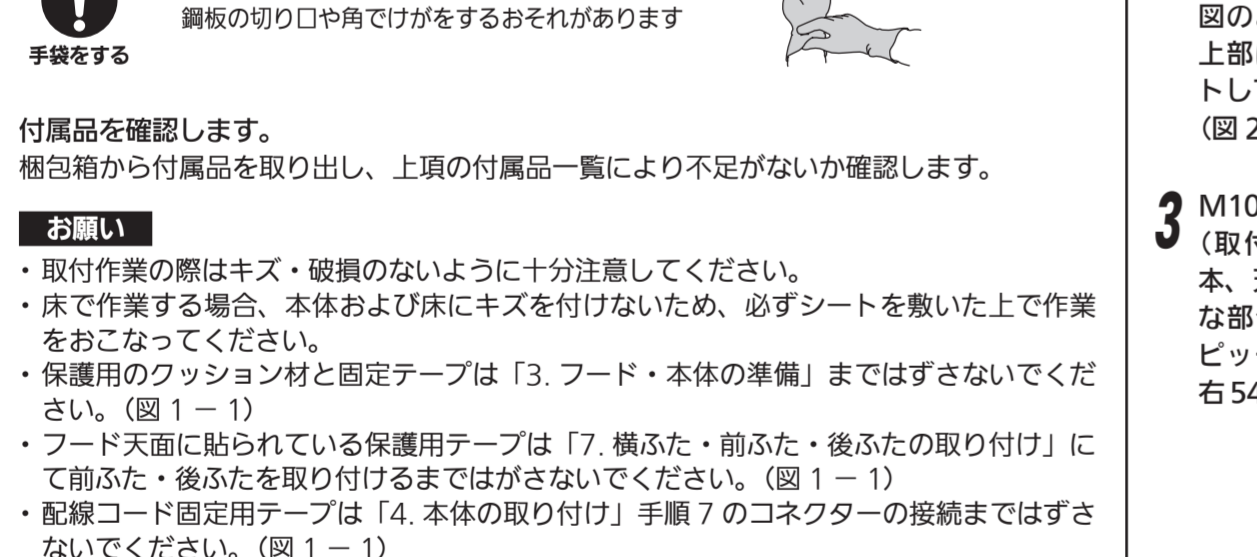
製品寸法図



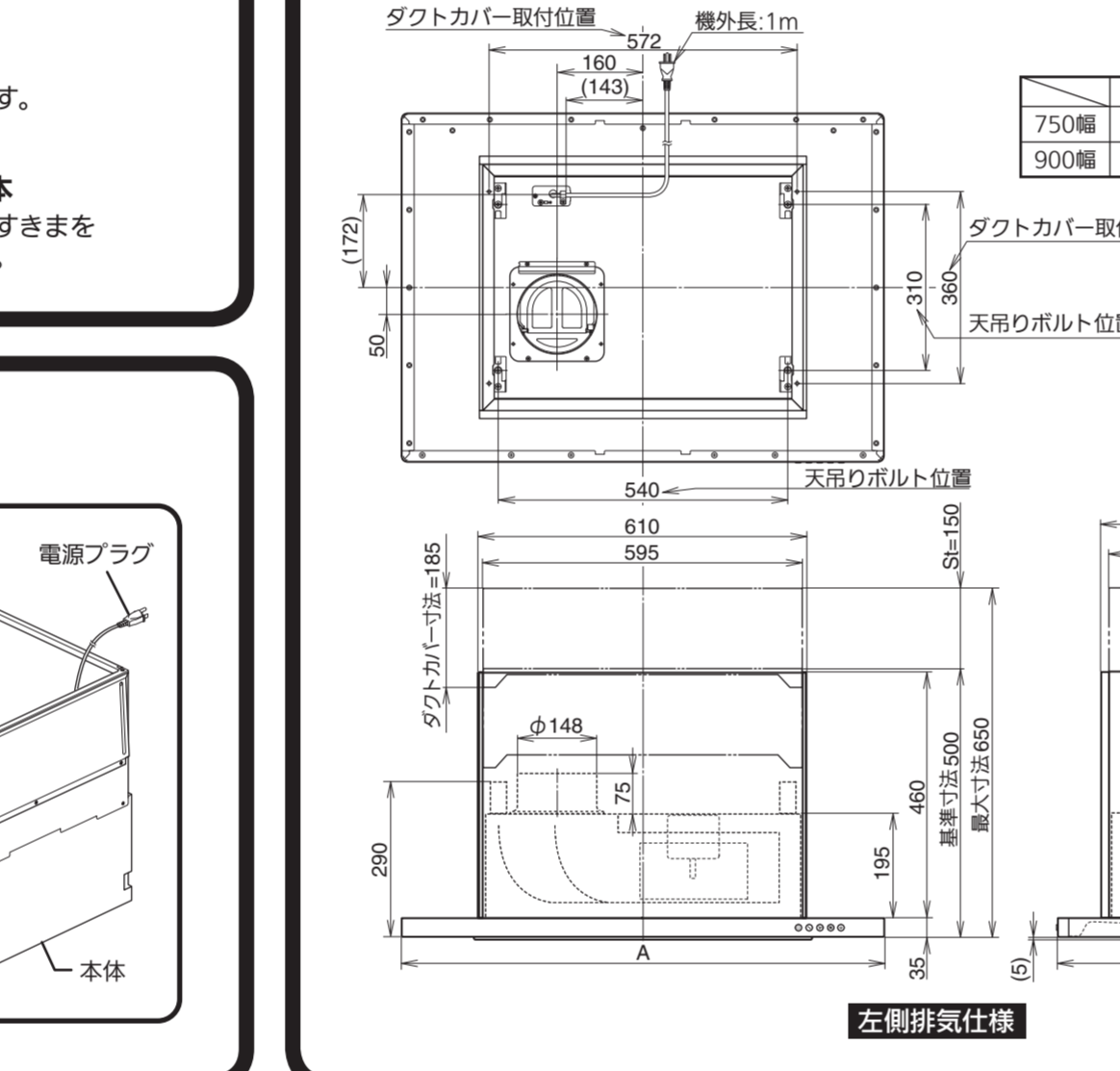
付属品

- トラスねじ (M5×10) 5本
フードと本体の固定に使います。
- トラスねじ (M4×10) 4本
別売ダクトカバーと本体の固定に使います。
- 低頭ねじ (M4×8) 3本
フードと煙道の固定に使います。
- オイルバック 1個
煙道に取り付けます。
- 煙道 1個
フードに取り付けます。
- ソフトテープ 1本
排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使います。

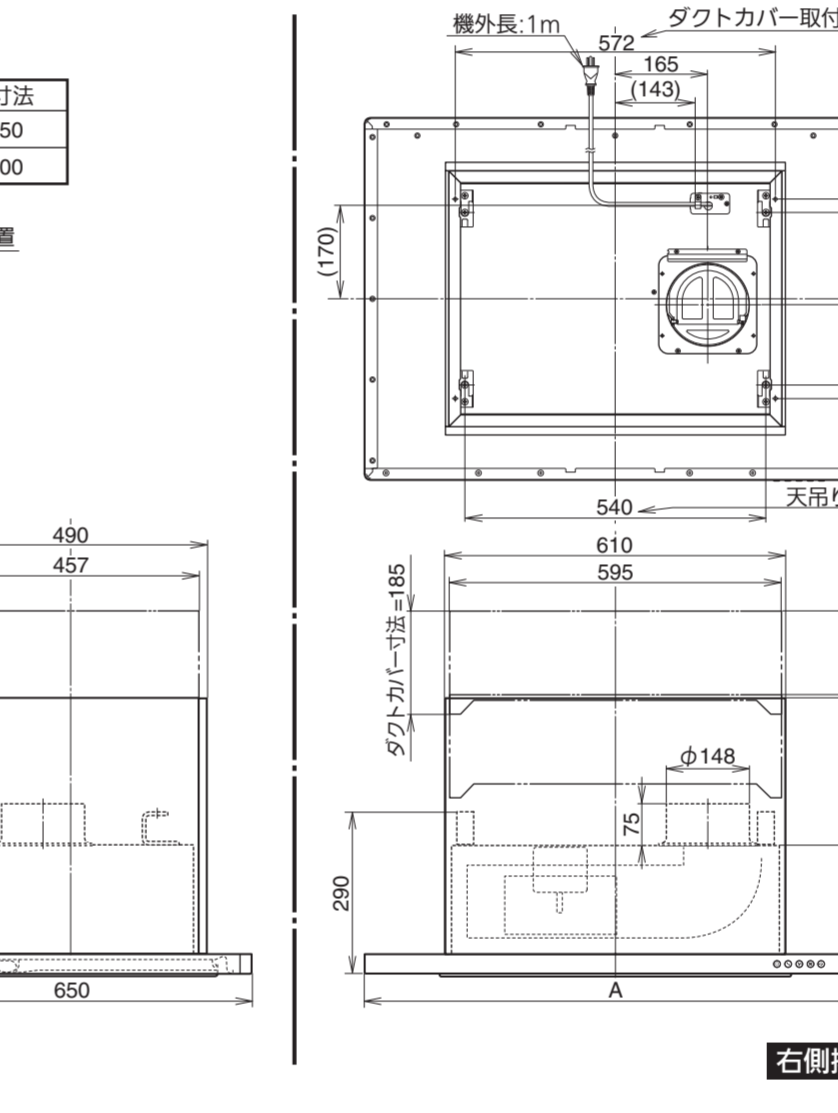
各部のなまえ



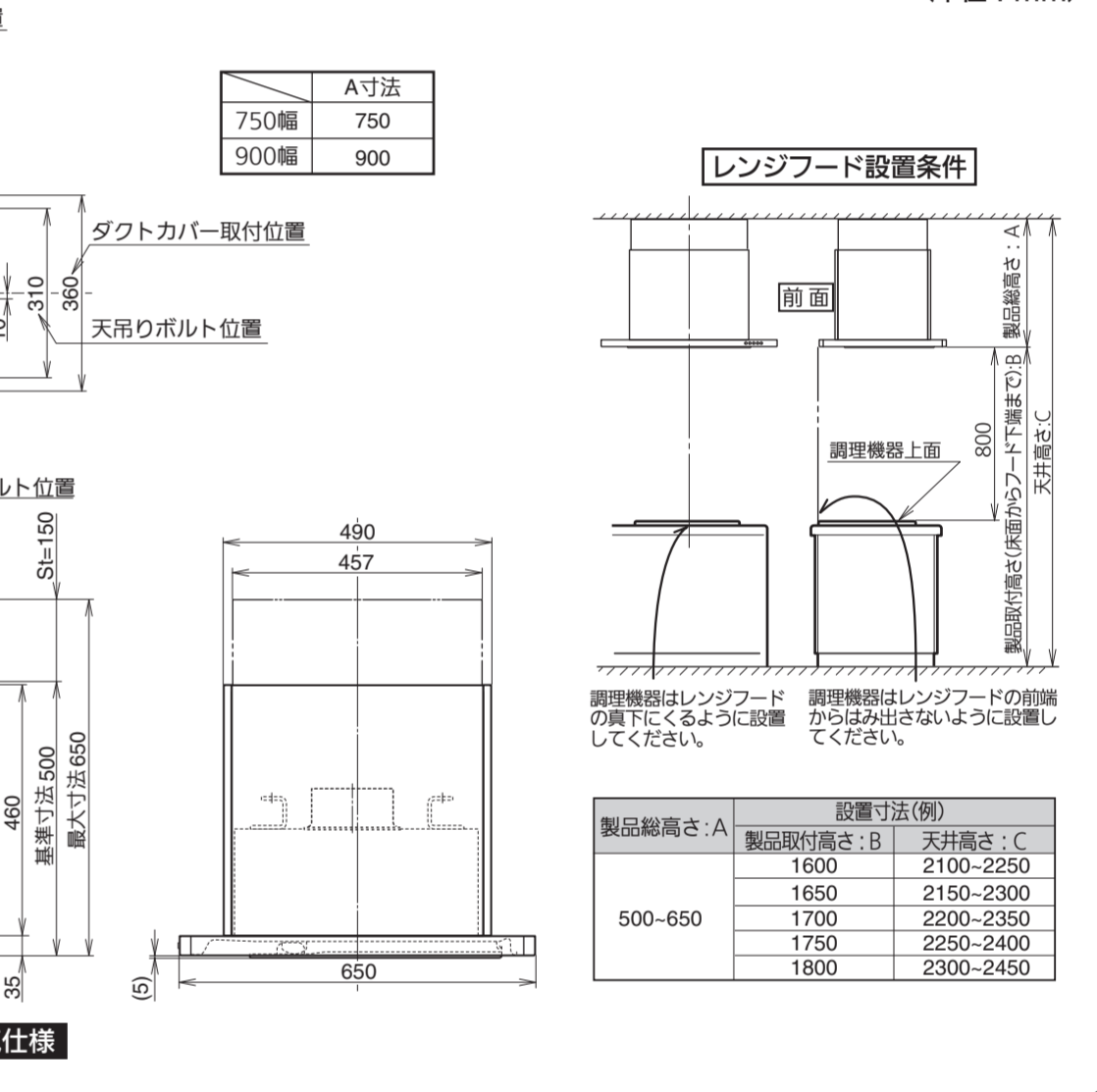
取り付けかた



本体の準備



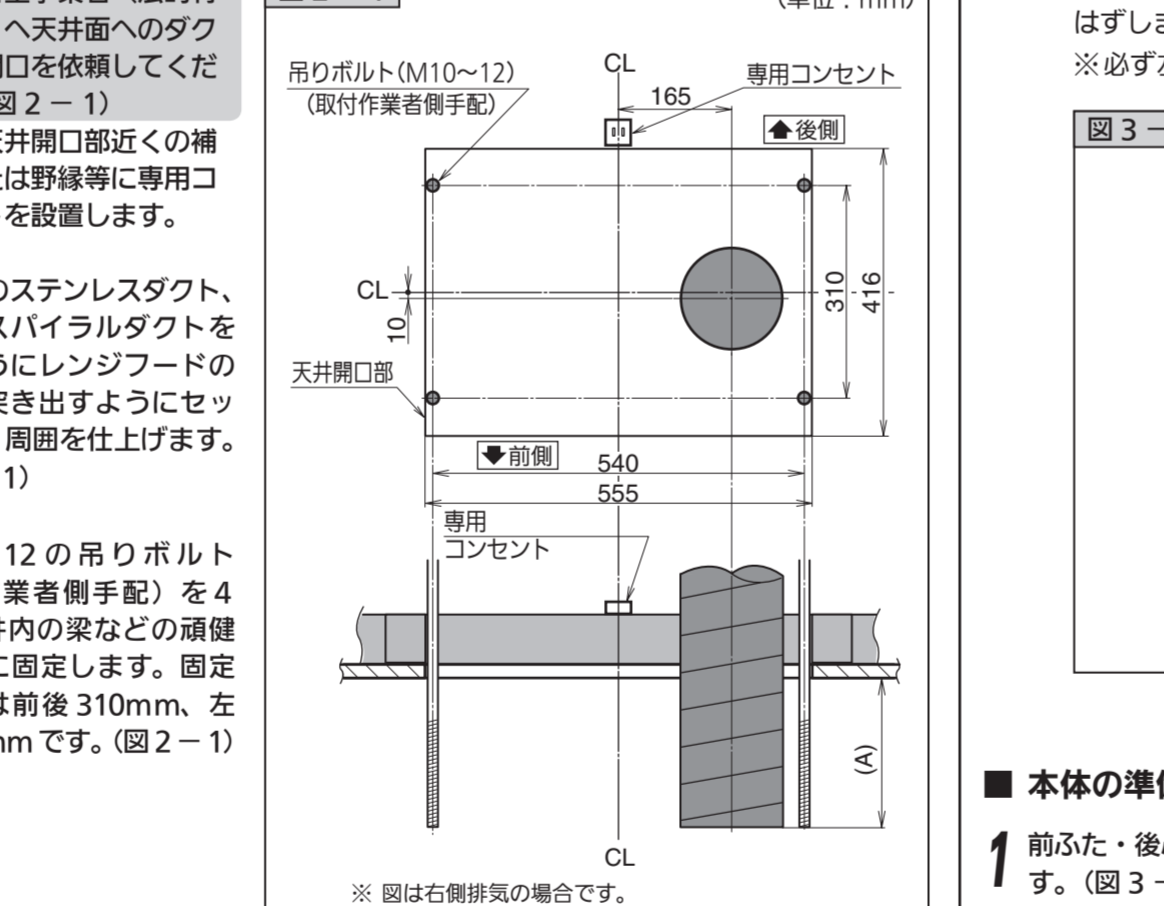
4. 本体の取り付け



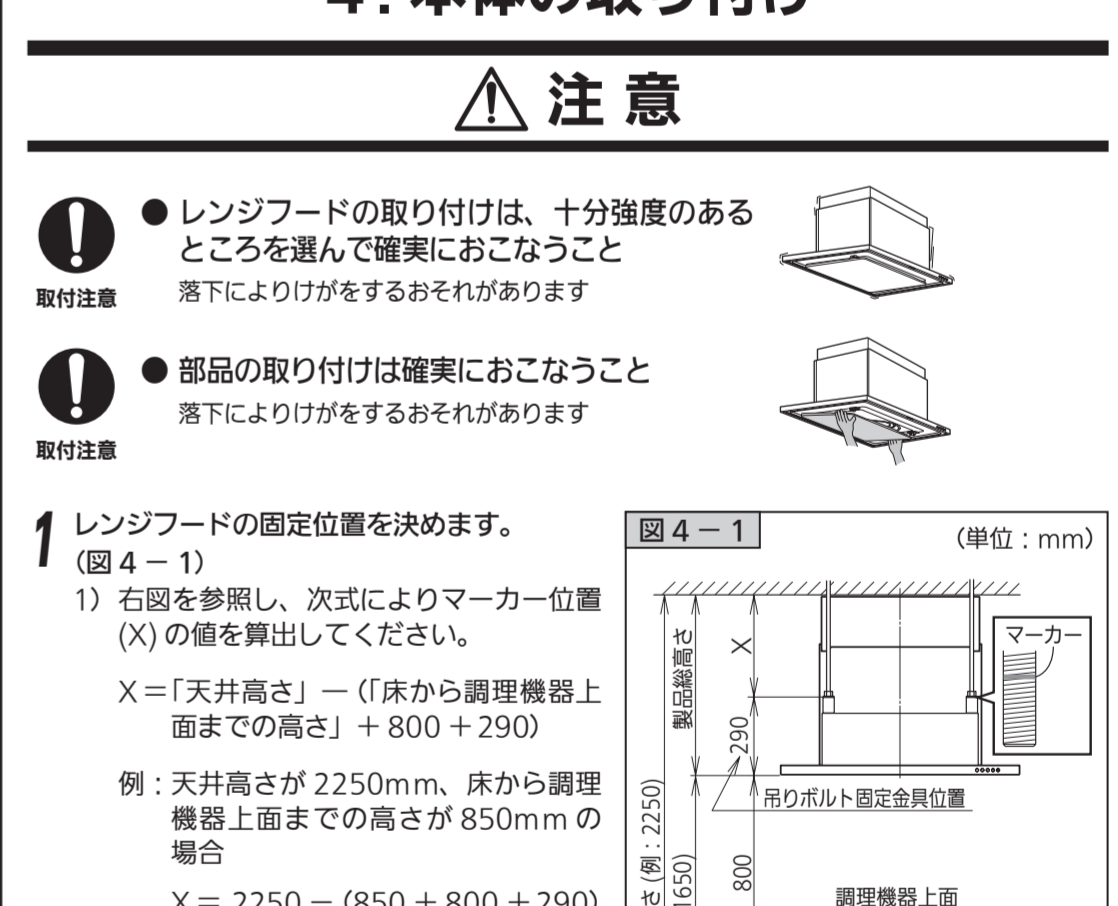
2. 取付準備



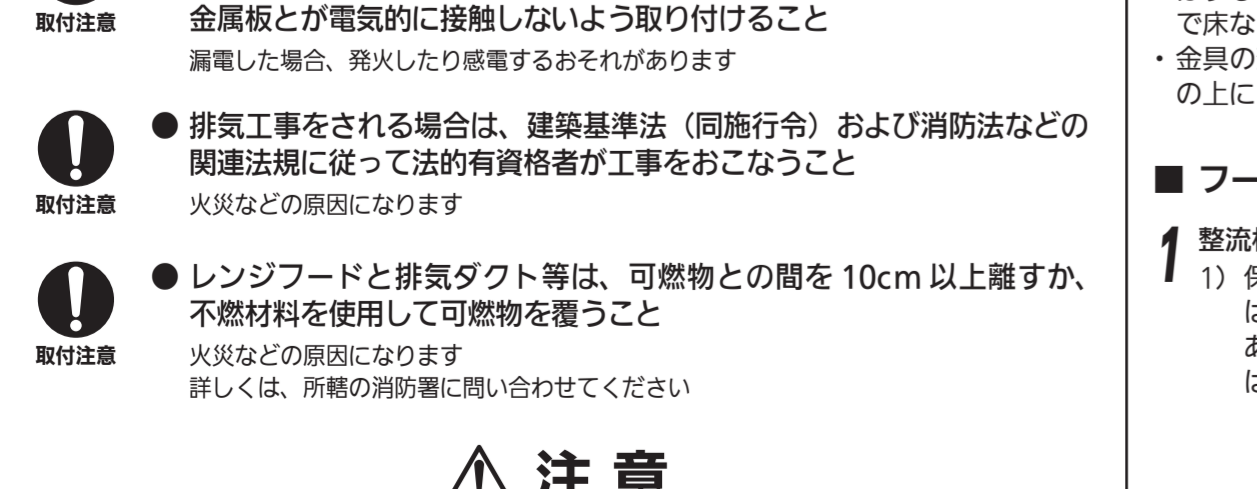
3. フード・本体の準備



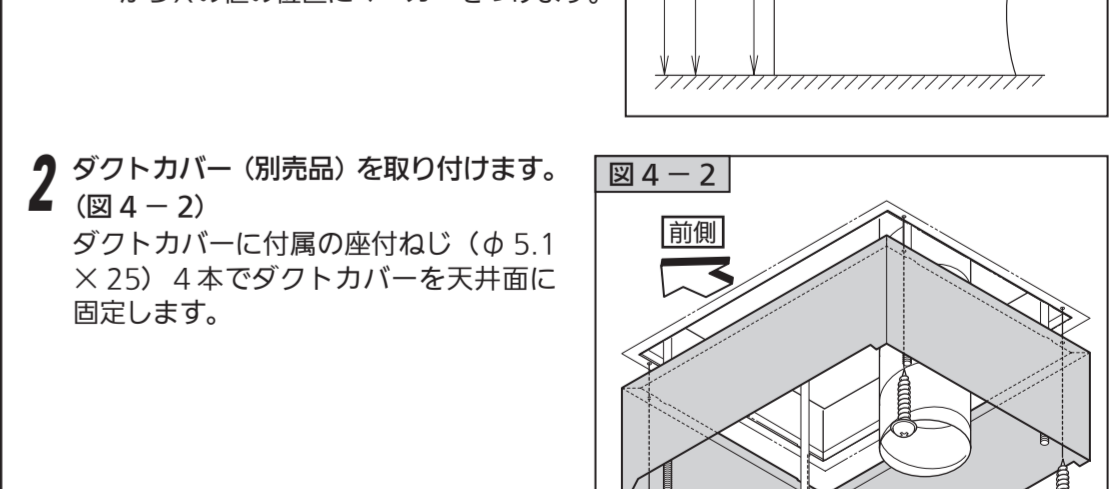
4. 本体の取り付け



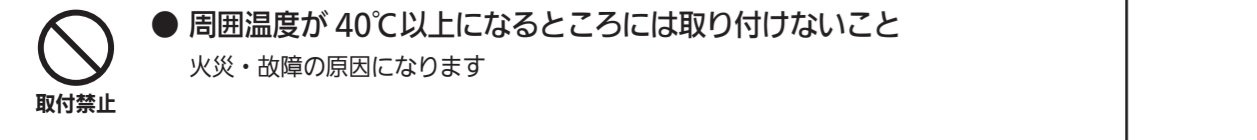
3. フード・本体の準備



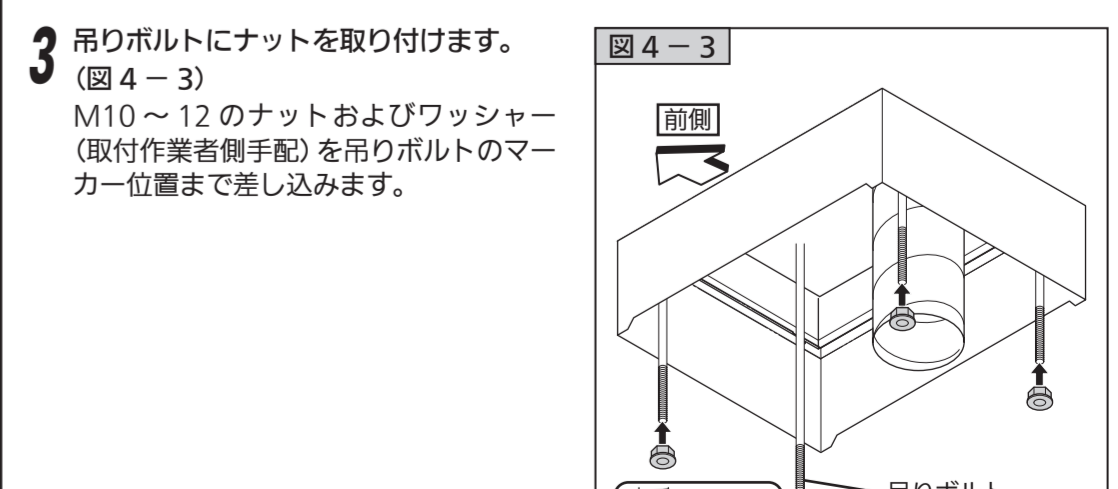
4. 本体の取り付け



2. 取付準備



3. フード・本体の準備



4. 本体の取り付け



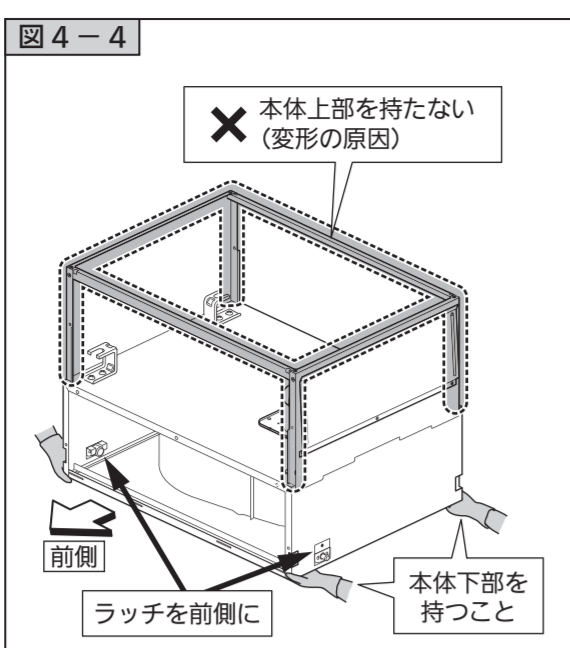
取り付けかたは裏面に続きます。

こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。
安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のお願いは表面をご覧ください。

取り付けかた

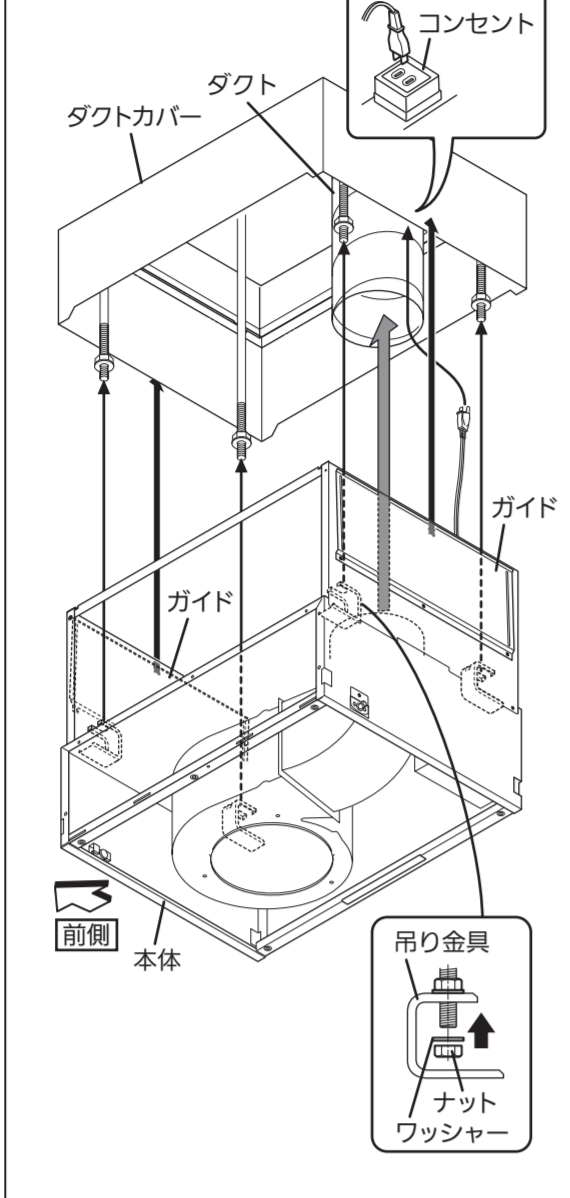
4 本体を吊りボルトに固定します。(図4-4)

- お願い**
- 本体を持ち上げる際は必ず下部を持ってください。上部を持つと変形の原因となります。
 - ラッチのある側が前側となりますので、向きを確認して取り付けてください。



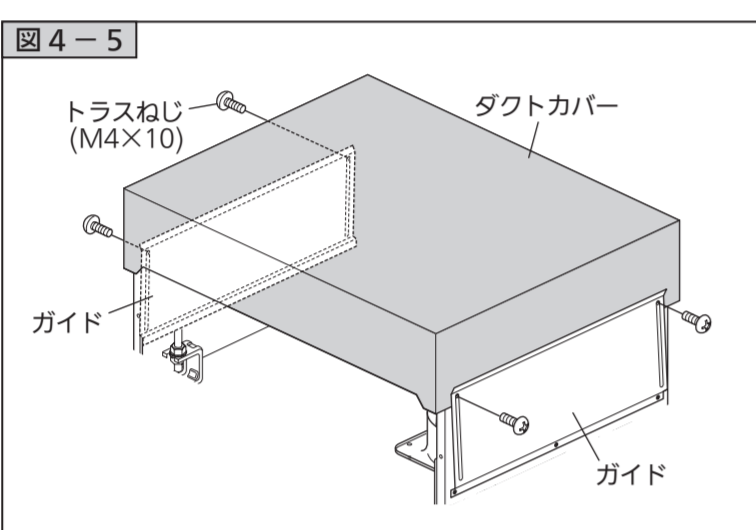
- 取り付けたダクトカバーを本体両脇のガイドで挟み込むように入れながら本体を持ち上げ、4ヶ所の吊り金具に吊りボルトを差し込み、吊り金具を挟み込むように吊りボルト下側からM10～12のワッシャーおよびナット（取付作業者側手配）でしっかりと締め付けます。

- お願い**
- ダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。
 - 吊りボルトに本体を差し込む際、配線をキズつけないよう十分に注意してください。



5 ダクトカバーと本体(ガイド)を固定します。(図4-5)

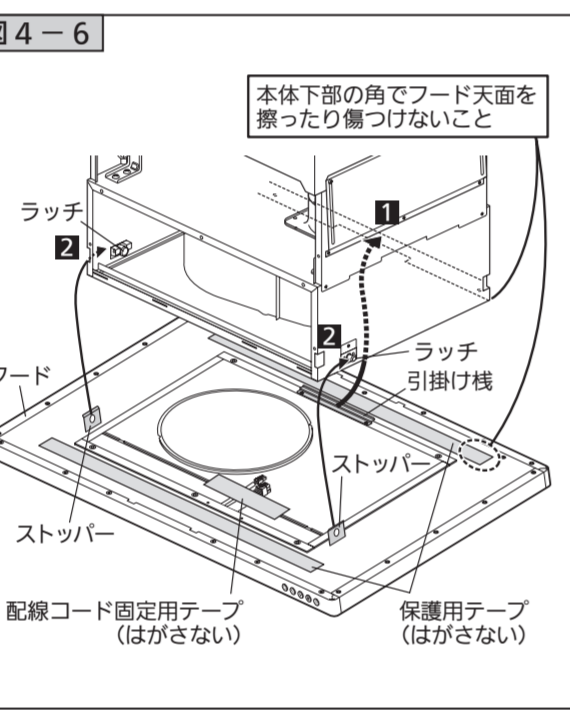
- ガイドの長穴とダクトカバーの取付穴を合わせ、左右各2ヶ所を付属品のトラスねじ(M4×10)4本で固定します。



6 フードを取り付けます。

- お願い**
- 保護用テープは「7. 横ふた・前ふた・後ふたの取り付け」にて前ふた・後ふたを取り付けるまではがさないでください。(図4-6)
 - 配線コード固定用テープは手順7にてコネクタを接続するまではがさないでください。(図4-6)

- フード後側の引掛け線を本体後側に引っ掛けます(図4-6 1)。

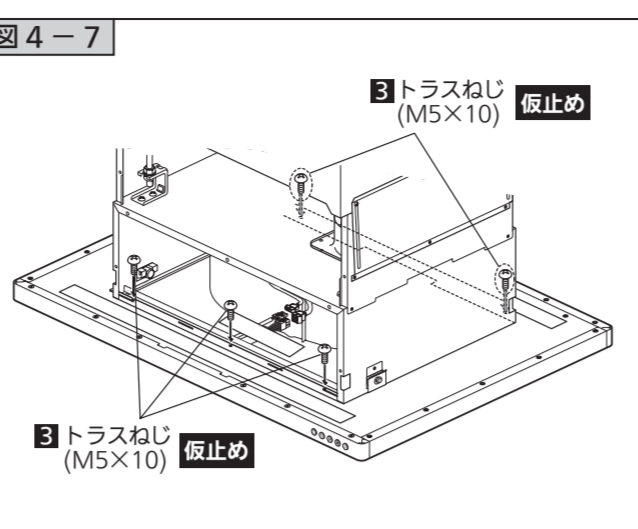


- お願い**
- 配線を挟まないようご注意ください。
 - 本体の角でフード天面を傷つけないようご注意ください。

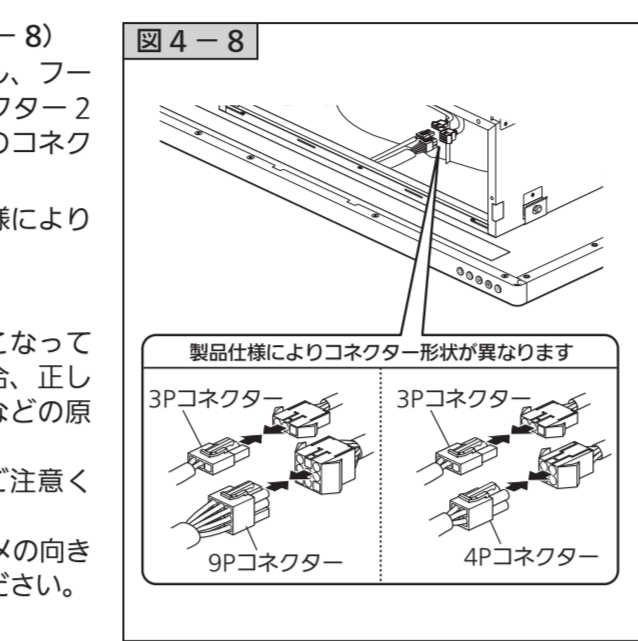
- フード前側を持ち上げ、ストッパーが本体のラッチに「カチッ」とロックされるまで持ち上げます(図4-6 2)。

- お願い**
- ストッパーとラッチが確実に引っ掛かったことを確認してください。ロックが不完全なまま作業を続けると、フード部が落下するおそれがあります。

3) 付属品のトラスねじ(M5×10)にて前側3ヶ所、後側2ヶ所を固定する前に、あらかじめ取付穴にねじを入れます。

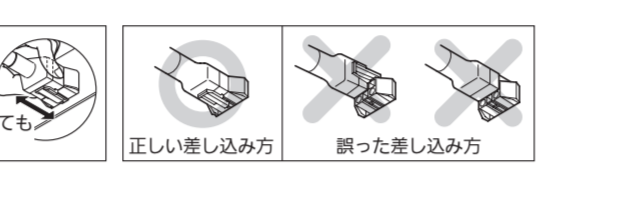


7 コネクタを接続します。(図4-8)

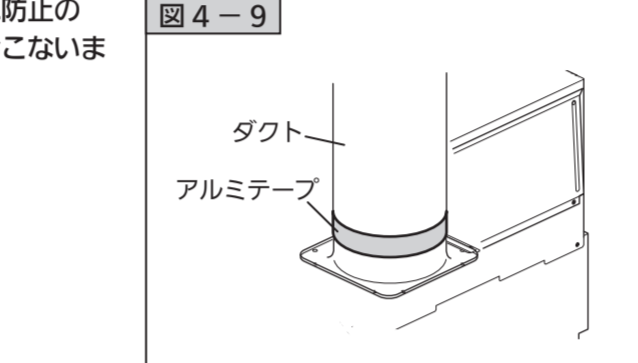


- 配線コード固定用テープをはがし、フードから出ている電気配線のコネクタ2本を本体から出ている電気配線のコネクタに接続します。
- ※コネクタのピン数は製品仕様により異なります。

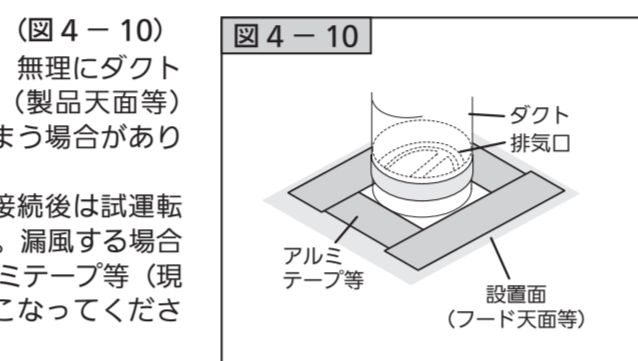
- お願い**
- コネクタの接続は確実に正しくしてください。接続が不十分な場合、正しく排気ができなくなり、故障などの原因となります。
 - また、配線類を挟まないようご注意ください。
 - コネクタを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。



8 ダクトと排気口の接続部に風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)をおこないます。(図4-9)

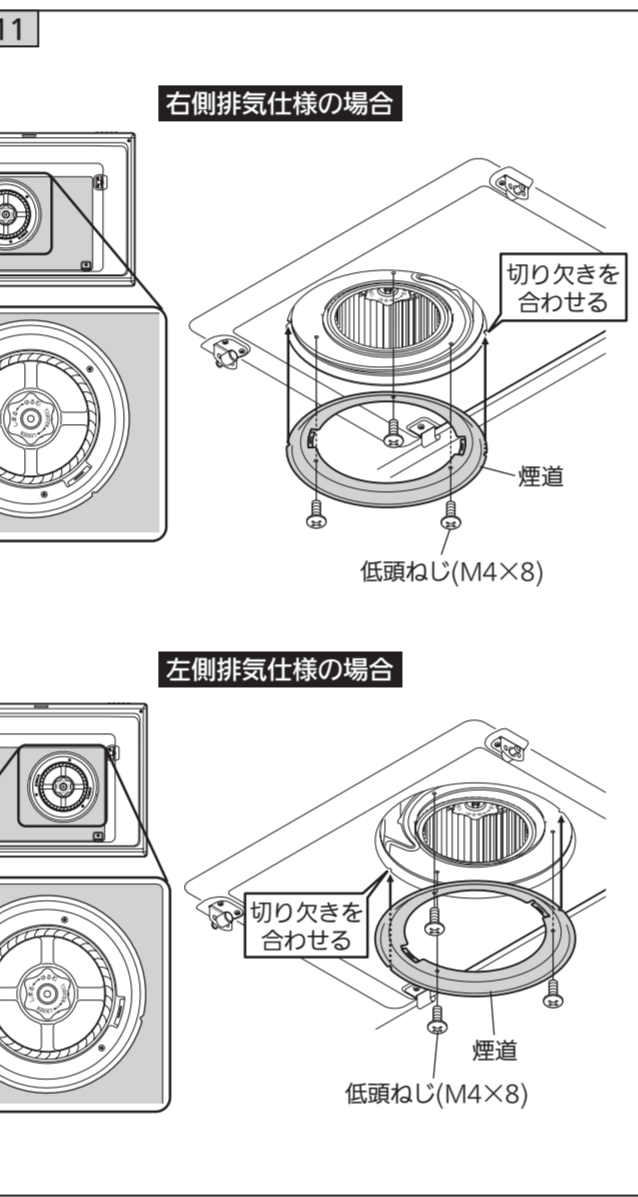


■ 排気口設置面の漏風確認のお願い(図4-10)



- 排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトに接続しようとする、設置面(製品天面等)が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。
- 風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転(強運転)をおこなってください。漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等(現場調達品)で漏風防止処置をおこなってください。

9 煙道を取り付けます。(図4-11)

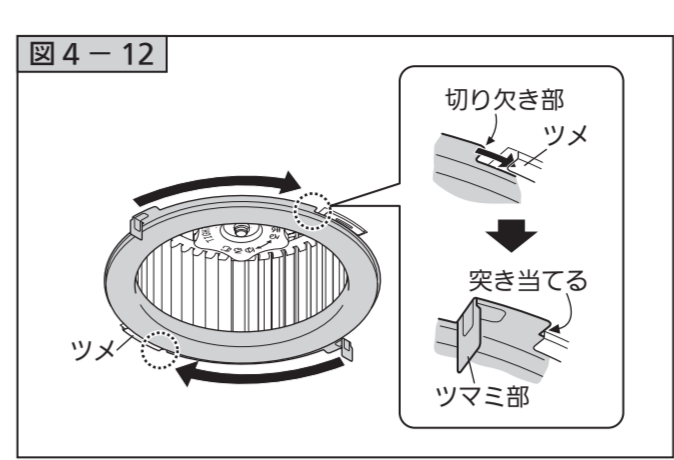


- 付属品の煙道をフード開口部の切り欠きとねじ穴に合わせ、付属品の低圧ねじ(M4×8)3本で固定します。

- お願い**
- 切り欠きとねじ穴が合わない場合は、手順6の3) (図4-7)で仮止めたねじを調整し、穴位置を合わせてください。

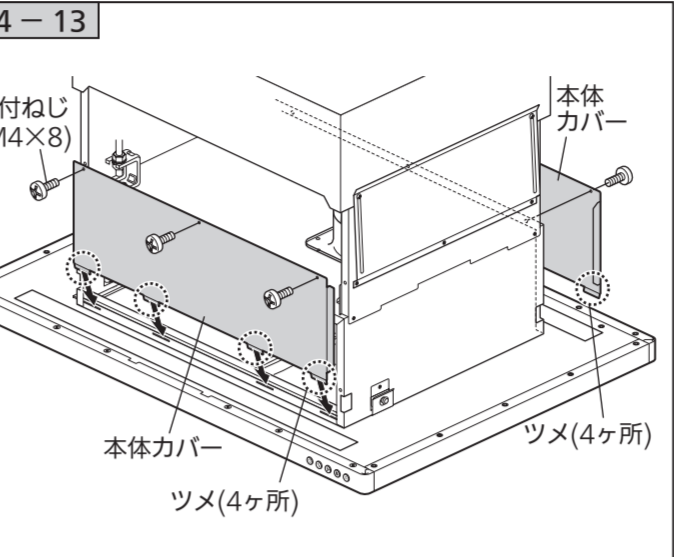
10 手順6の3) (図4-7)で仮止めた前側3ヶ所、後側2ヶ所のトラスねじ(M5×10)をしかりと締め付けます。(本締め)

11 オイルバックを取り付けます。(図4-12)



- オイルバックの切り欠き部をツメに差し込み、ツマミ部が突き当たるまで回します。

12 本体カバーを取り付けます。(図4-13)



- 「3. フード・本体の準備」手順3で取りはずした本体カバー2枚を、本体の前側下側に取付ねじ(M4×8)各3本で取り付けます。

- お願い**
- 本体カバーのツメ(各4ヶ所)をしっかりと差し込んだことを確認した上で固定してください。

13 整流板を取り付けます。

- 「3. フード・本体の準備」で取りはずしたときと逆の手順で整流板を取り付けます。

5. 電気配線



- 警告**
- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作しけがをするおそれがあります
- 交流 100 V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因となります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因となります
- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

- 「4. 本体の取り付け」手順4の2)で以下の作業をおこないます。
分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

- お願い**
- 電源は専用のコンセント(2極接地極付差込接続器 15A、125V)およびブレーカーを付けてください。
 - 「6. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
 - コンセントは電源コードの長さ(機外長約1m)を考慮し、設置してください。
 - 必ずアース工事(D種接地工事)をしてください。

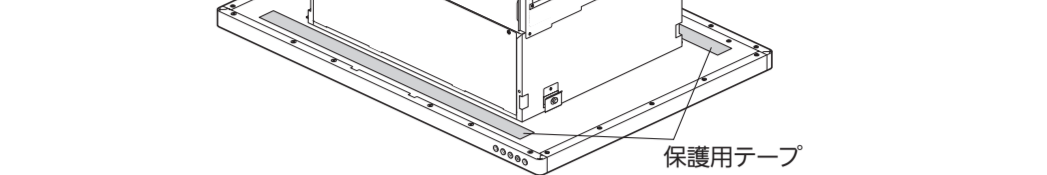
6. 試運転



- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります
- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気され、異音がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

7. 横ふた・前ふた・後ふたの取り付け

- 横ふたは左右同一品です。また、前ふた・後ふたも同一品となります。
- 横ふたを先に取り付けてください。
- 取り付けかたは「3. フード・本体の準備」の取りはずしかた(■本体の準備(図3-3))を参考にしてください。
- 前ふた・後ふたを取り付けた後、フード天面の保護用テープをはがしてください。



- お願い**
- 取り付ける際は、フード天板面にキズをつけないように注意して取り付けてください。
- ※ 取付作業完了後は製品保護のため、はずした保護用のクッション材と固定テープはもとの状態に取り付けてください。

8. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

〔製造元〕 **FUJIOH** 富士工業株式会社
 本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺2丁目1番9号
 TEL 042(768)3754 (営業部)